

「全国の高校で骨髄バンクドナー登録会」の実現を！

骨髄バンクとは

骨髄移植や末梢血幹細胞移植は、白血病などの病気で正常な造血ができなくなった方と健康な方の造血幹細胞とを入れ替えることで機能を回復させる治療法です。日本では「骨髄バンク事業」が1992年から開始されています。骨髄移植や末梢血幹細胞移植を必要とする患者さんは毎年全国で約2,000人いらっしゃいますが、型が合わない等の理由で誰でも移植できるわけではないので、移植可能なドナーが圧倒的に足りていないのが現実です。

骨髄移植の問題点

- ・ヒト白血球抗原(HLA)には多くの型があり、型が合致しないと移植できない
- ・移植には新鮮な幹細胞が適しているため、ドナーに年齢制限がある(上限55歳)

骨髄バンク普及に取り組んだきっかけ

校長先生の講話の中で「白血病を患った友人」についてのお話を聞いたことがきっかけでした。

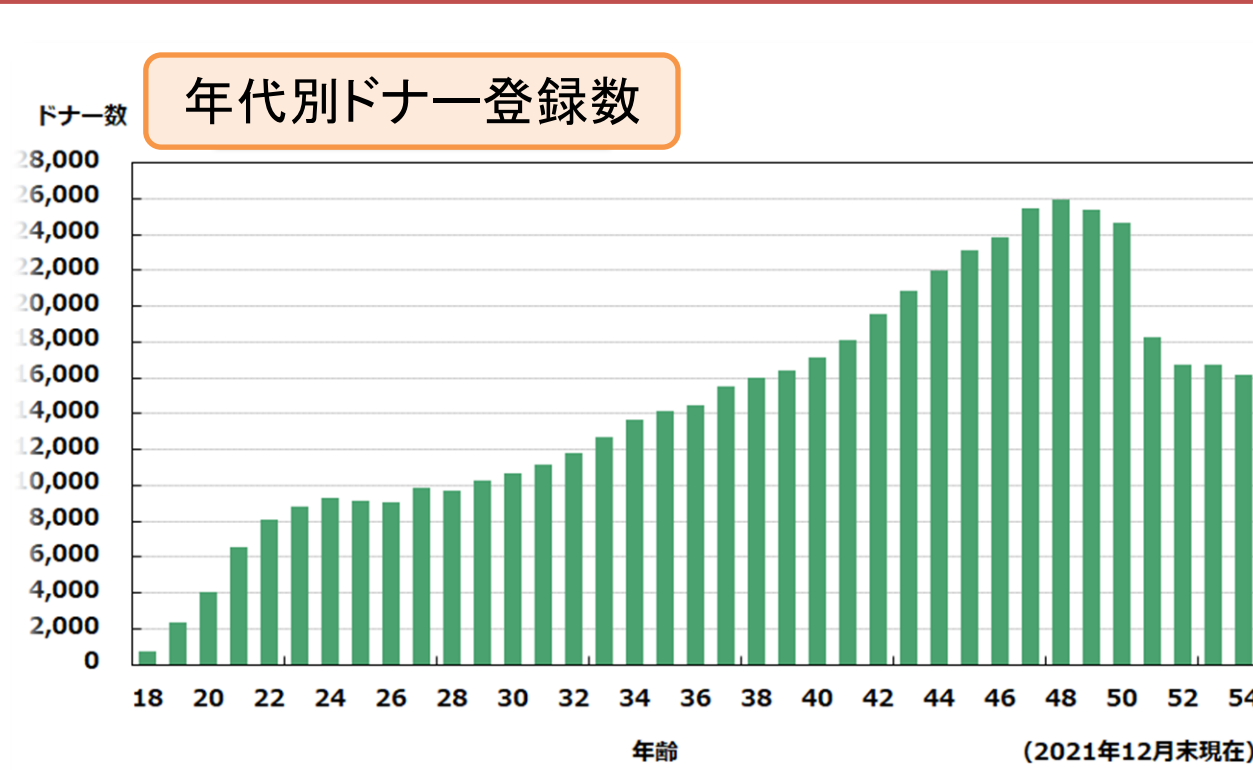


大学時代の友人が白血病を患い、友人を救いたいと考え骨髄ドナーに登録しました。しかし、型が合わなかったために、友人に骨髄を提供することは最後までできませんでした。その時の無念は今でも忘れられません。そんな思いをする人を一人でも減らすために、学校で骨髄バンクドナー登録会を始めました。

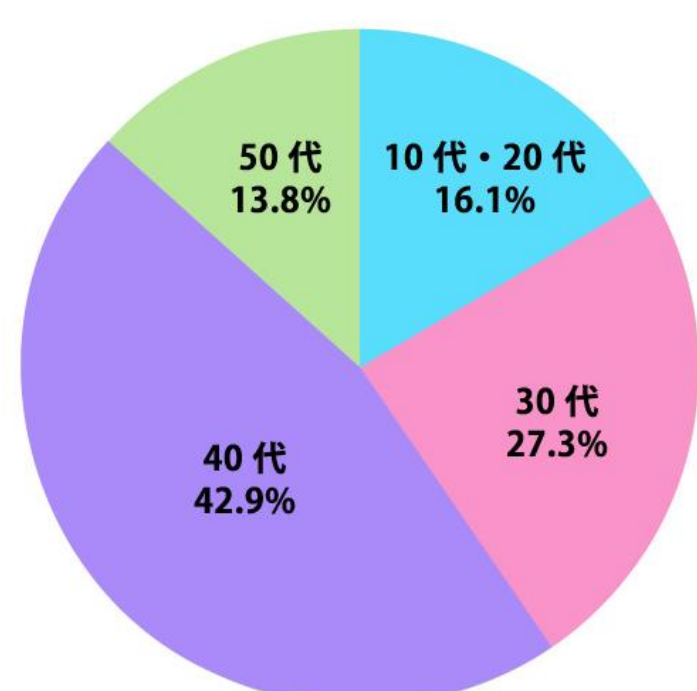
校長先生のこの話を聞き、感銘を受けました。そこで、私達にもできることはないかと考えました。骨髄ドナーは18歳以上、55歳以下の人が登録できるため、高校3年生から登録可能です。私たちが在校生にも協力できることがあるのではと考え、「骨髄バンクドナー登録会」の活動を周知する活動を始めました。



なぜ「全国の高校で骨髄バンクドナー登録会」なのか



2021年度登録者の年代別割合



年度別登録者数の推移



HLAの適合率は兄弟姉妹でも4人に1人(25%)、血縁関係がないと数百人から数万人に1人とされています。

- ➡ 1人でも多くの登録者が必要
 - ➡ 毎年20,000人が登録外に(登録上限55歳)
 - ➡ 10代、20代の登録者が少ない
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、近年新規登録者数が減少していることも気になります。

➡ 登録者数増には若い年代の力が必要

そこで

本校では約10%の生徒が毎年登録しているのですが、このデータに基づいて計算すると…

2023年3月卒業予定の全国の高校生109万7148(人)
この10%が登録するということは…
約100万人×10%=10万人

もし全国の高校で骨髄バンクドナー登録会が行われたら、登録外になる人を差し引いても…

毎年登録者が、約8万人増えていく

グラフ引用元: 造血幹細胞移植情報サービス <https://www.bs.jrc.or.jp/bmcd/generalpublic/index.html>
日本骨髄バンクスペシャルサイト <https://www.jmdp-donor-special.jp/>
日本赤十字社HP <https://www.jrc.or.jp/donation/first/>

私たちの活動

骨髄バンクドナー登録会は卒業記念献血と併せて行われています。

骨髄バンクドナー講演会

本校では、毎年3年生に向けて「骨髄バンクドナー講演会」が行われています。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大に配慮してオンラインによる生中継で開催されました。終了後には、講演していただいた広畑さんから直接お話を聞くことができました。



卒業記念献血

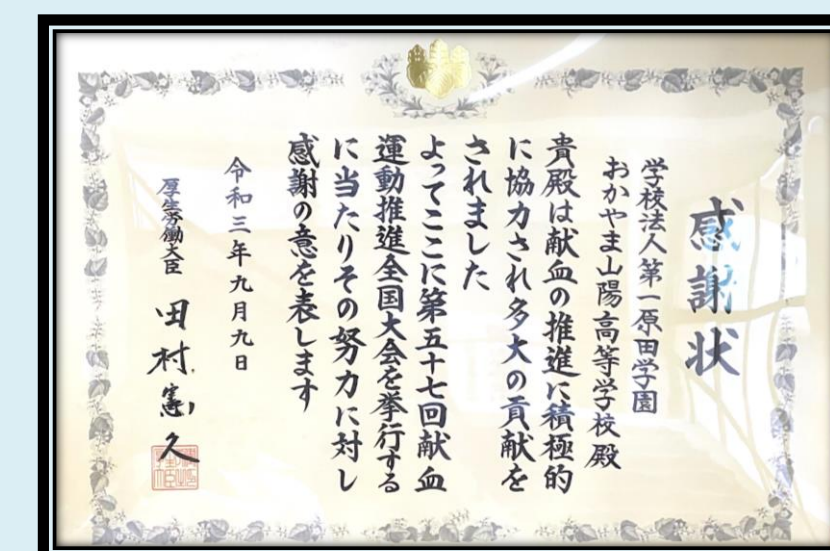
本校では3年生を対象に1982年から「卒業献血」を実施しています。多い年には200人を超える希望者が献血に協力し、献血バスを3台も用意していただいたこともありました。これは岡山県内では例を見ない多さでした。「思っていたより痛くなかった」という人が多く、そういった声の後輩への安心材料にもなっています。



本校の製菓科は全国スイーツ甲子園においてこれまでに3度の優勝経験があります。その製菓科の生徒が献血ルームのキャラクタークッキーを考案しました。事前に日本赤十字社のホームページでも呼びかけを行い、各会場で献血してもらった先着100名にクッキーを配布しました。

厚生労働大臣から表彰

2021年9月27日に、これまでの献血への貢献が認められ、「献血運動推進協力団体等厚生労働大臣感謝状」をいただきました。これは、長年にわたり、献血活動に協力した団体を称えるために、厚生労働大臣から贈られるものです。この日は大臣の代理として、浅口市の栗山康彦市長が来校され、本校の原田校長へ感謝状を記念品と共に授与していただきました。



10年目

骨髄バンクボランティア

骨髄バンクドナー登録会

卒業記念献血と併せて2013年から行われているのが「骨髄バンクドナー登録会」です。登録会には公益財団法人「日本骨髄バンク」地区普及広報委員の広畑紀子さんも来られて、私たちと一緒に登録を呼びかけ、丁寧な説明をしてくださいました。骨髄提供の際には手術を伴うので不安に思う生徒もいましたが、広畑さんの説明を受けて、納得し安心した様子で登録を進めていたのが印象的でした。

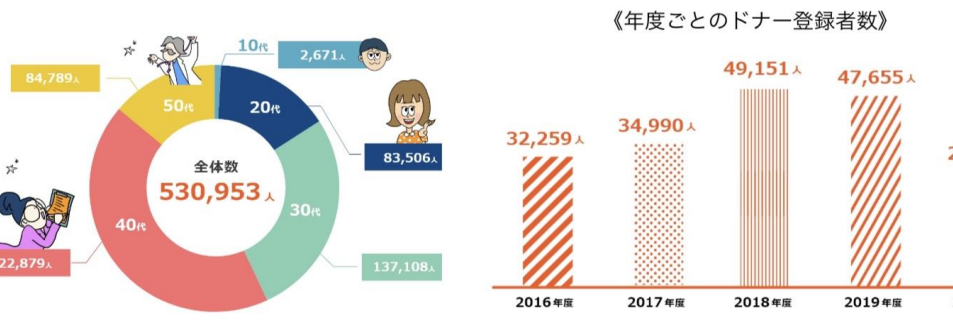


教室掲示用ポスター作成SNSで発信

昨年度は卒業献血と骨髄バンクドナー登録会に、より多くの在校生に協力してもらえよう、対象である3年生の教室にポスターを掲示しました。またSNSのアカウントを作成し、骨髄バンクの登録を呼びかける発信を行いました。

骨髄バンクにご登録下さい

現在のドナー登録者は、約53万人です。右下のグラフを見るように、年々ドナー登録者数が減少しています。骨髄提供は、患者とドナーの適合率が、血液提供より難しいです。なので患者をより多く救うためにドナーの数を増やしていく必要があります。



登録対象者は、満18歳以上です

※Instagramでも骨髄バンクについて発信しています。是非フォローお願いします。



献血・骨髄バンクの街頭呼びかけ

2022年3月20日(日)にエフピコアリーナふくやまの献血会場にて、献血のご協力と骨髄バンクドナー登録の呼びかけを行いました。当日はこの施設でバスケットボールの試合が行われており、試合観戦に来られた方や、献血を長年続けられており足を運んでくれた方など、多くの方にご協力いただくことができました。



この活動を通して考えたこと

改善点として世代別の対策やコミュニティでできることを考えていけば効果があると考えています。例えば、学生などの若い世代向けに「献血・骨髄バンクへの理解を深めてもらうためのセミナー」を実施したり、学校ごと、企業ごとなどで団体献血を促すことも良い手段ではないかと感じました。

SNS発信を行いました。想像していたよりも広めることができず苦戦しました。そこで、アカウントをフォローしてもらえるような工夫をしたいと考えました。「ドナー登録するとこんなメリットがある」ということをはっきり示したり、大切な情報が載っている投稿にドナー登録会の情報も併せて載せたりできるのではと考えています。

本校だけでなく、他校にも骨髄バンクドナー登録会や卒業献血などの活動を広めることができれば、より多くの命を救うことにつながるはずです。



今後の活動について

まずは献血や骨髄バンクについて、なぜ必要とされているのか、どんなものなのかということについての理解を深めてもらう機会を作ることが重要だと考えています。特に、私たちのような若い世代の意識はとても大切です。秋には文化祭でパネル展示などを行い、より多くの方へのメッセージを届けたいと思っています。「全国の高校で骨髄バンクドナー登録会の実現を！」の夢を実現できるように全国に情報を発信していきたいと考えています。年間8万人登録者増加に向けて皆さんもご協力よろしくお願いします！



活動団体プロフィール

【おかやま山陽高等学校】

～献血・骨髄バンクチーム～

本校の3年生を対象に卒業記念献血を40年、骨髄バンクドナー登録会を10年続けています。本校には様々な学科・コースがあり、それぞれの立場で活動に協力しています。昨年度は校内で呼びかけポスターを作成したり、SNSを活用したりして情報を発信し、希望者が増えるよう呼びかけを行いました。また、校外では総合運動施設で行われた献血・骨髄バンク登録会のイベントに参加するなど、活動の幅を広げています。